

## 議事要旨

会 議 名	第 5 回 「(仮称)はちおうじ未来デザイン 2040 」懇談会
日 時	令和 4 年(2022年)1月 18 日(火)午後 7 時 00 分～8 時 50 分
場 所	オンライン(Microsoft Teams)
出 席 者 氏 名	<p>参加者</p> <p>拓殖大学 教授 新田目 夏実 氏          東京都立大学 教授 市古 太郎 氏          東京都立大学 准教授 杉原 陽子 氏          法政大学 教授 淵元 初姫 氏          明星大学 教授 河合 美香 氏          八王子市町会自治会連合会 副会長 (八王子市町会自治会連合会推薦) 尾寄 敏夫 氏          八王子商工会議所 常議員 (八王子商工会議所推薦) 加藤 正道 氏          NPO 法人八王子子ども劇場 代表理事 (八王子市民活動協議会推薦) 浅野 里恵子 氏          東京工科大学大学事務局学務部 部長 (大学コンソーシアム八王子推薦) 豊嶋 信一 氏          みなみ野小中学校学校運営協議会 代表 荒井 嘉夫 氏          八王子にほんごの会 役員 宮武 茜 氏          高尾の森自然学校 代表 梶浦 正人 氏          市民参加者 下村 麻子 氏          市民参加者 小幡 未紀 氏</p> <p>事務局</p> <p>未来デザイン室 室長 今川 邦洋          未来デザイン室 長期ビジョン担当主幹 志村 慶太          未来デザイン室 主査 羽生 勇次          未来デザイン室 主任 小山 清史          未来デザイン室 主任 無藤 一貴</p>
欠 席 者 氏 名	八王子障害者団体連絡協議会 代表 杉浦 貢 氏 こども食堂ふくろうはうす 代表 (八王子市社会福祉協議会推薦) 細田 明菜 氏
議 題	(1) 長期ビジョンにおける取組の内容について ア 未来を拓く原動力 イ 変革のキーワード ウ 重点テーマ及び取組方針 (ア)重点テーマ① 未来の主役づくり
公開・非公開の別	公開
非 公 開 理 由	—
傍 聴 人 の 数	なし
配 付 資 料 名	資料1:「第4回懇談会における意見一覧」 資料2:「計画体系図」 資料3:「長期ビジョンにおける取組の内容について(前半)」

会議の内容  
( 1 )

次第1 開会

【事務局】

事務局より、当日参加者の確認及び配布資料の確認。

<欠席者:2名>

杉浦 貢 氏

細田 明菜 氏

<資料>

資料1:「第4回懇談会における意見一覧」

資料2:「計画体系図」

資料3:「長期ビジョンにおける取組の内容について(前半)」

次第2 第4回懇談会議事要旨

第4回懇談会議事要旨の公開時期、第4回懇談会でいただいた意見一覧について事務局より説明。

次第3 議題

1 計画体系図、「未来を拓く原動力」について事務局より説明

<事務局説明要旨>

次期計画では、現行計画の「基本構想」(「まちづくりの基本理念」、「都市像」、「基本施策」)は継承する一方、それらに紐づく「施策」の内容、数は見直す。

第3・4回懇談会で意見をいただいた「みんなで目指す2040年の姿」の実現に向けて、第5・6回懇談会では、2030年度までの市の取組(「未来を拓く原動力」、「変革のキーワード」、「重点テーマ・取組方針」)に関する議論をお願いしたい。

現行計画の「基本構想」を継承し、「施策」などの取組を加速化させていくことを目的に、「未来を拓く原動力」として「地域自治」、「共創」の設定を考えている。

2 意見交換

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

計画体系図及び「未来を拓く原動力」に関する意見交換としたい。

【東京都立大学教授 市古太郎 氏】

「未来を拓く原動力」に「共創」とあるが、「連携」やこれまで進めてきた「協働」との違いは何か。

【事務局】

現行計画では、市民と行政の「協働」を柱の1つとして掲げてきたが、今後はそれをより発展させ、市民と行政の課題等について、早い段階から話し合い、共感いただき、ともに課題を解決するプロセスに導いていきたい。

【東京都立大学教授 市古太郎 氏】

言葉の定義は色々あっていいと思うが、例えば、「協働から共創へ」等のように、意味合いは紙面で言及していきたい。

また、これまで課題解決には市や様々な団体等がリーダーシップを発揮して関わってこられたが、課題認識の段階から市民が関わることは21世紀型の課題解決の在り方であると感じた。カーボンニュートラルなどを進めていくにも大事な視点だと思う。

会議の内容  
( 2 )

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

資料3に記載のある通り、共創には「新たな価値を創造する」ことに重きが置かれている。また、現行計画では「市民自治の推進」との表現もあった。

【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】

趣旨に異論はないが、「地域自治」という言葉に硬い印象、古い印象を受けた。実態として幅広い市民参加が行われており、そういった意味合いも含めていると思うが、「市民参加」などの言葉の方が良いのではないか。

【事務局】

「市民参加」は「地域自治」の一要素として認識しているが、今後、地域のことを地域自らが決め、それを実行する発展型の在り方を想定しており、メッセージ性を込めてこのような表現とした。また、現時点での「市民自治」との相違点として、より小規模な単位での自治を念頭に置いている。「地域自治」の推進が、将来的には「市民自治」につながると思っている。

【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】

「自治」の前段階として「参加」があり、多様な主体の参加を前提として自治につながるので、「自治」が狭義に感じる。「原動力」という意味では「参加」を強調してもよいと思うが、課題解決まで踏み込んでほしいという思いは理解した。

【みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏】

「未来を拓く原動力」に関する一連の事務局説明の中で納得できたところもある一方、すでにある程度イメージが広まっている表現を、新しい概念と結びつけることに難しさを感じる。

「共創」は馴染みのない表現であり、事前資料受領後に自ら調査したが、勉強が必要であると感じた。もし可能であれば、参考とした他団体事例等の資料を事前配布いただきたい。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

今後、パブリックコメントを実施する際等にも、参考とした事例の資料を併せて展開できれば疑問点を解消できる可能性がある。

【事務局】

横浜市や大阪府では「共創」について取り組んでいる。特に、横浜市では、十数年前から取組を開始しており、大企業、中小企業等の民間事業者と行政が協力する形で様々な事業を展開している。他団体の取組事例について情報提供させていただく。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

懇談会の内部資料に留めるのではなく、参考事例や全国的な潮流を提示することができればより説得力が増すと考えている。

【明星大学教授 河合美香 氏】

企業でも「共創」が注目されている。トップダウンで物事を決めるのではなく、様々な意見を取り入れようとする動きが世界的にもトレンドであると言える。

また、「地域自治」と「共創」とあるが、そもそも相容れないのではないか。図より、概念が相互に関連し合うことを意図されていると理解したが、誰が見ても関係性がわかる表現に変えたほうが良いと考える。

【八王子市町会自治会連合会副会長 尾寄敏夫 氏】

「未来を拓く原動力」について、市民や民間事業者があまりに表に出過ぎており、行政の立場が見えなくなっていると感じる。行政の役割をより引き立たせる必要があると考える。

【法政大学教授 淵元初姫 氏】

人によって表現から受ける印象や受け取り方は様々であると感じた。

例えば、私の専門のコミュニティ政策分野では、「参加」と「協働」を対比して整理している。その中で、「参加」はコミュニティの中で意思決定を行う、「協働」はコミュニティの物事について汗をかかというニュアンスがある。それを踏まえると、今回の表現には違和感がある。

また、「市民自治」や「地域自治」に含まれる「自治」の取扱いは難しいと考える。一般市民からすれば、構えてしまう概念と感じた。「自治」は、「自ら治める」と「自ずから治まる」の両義的な概念があるが、そのいずれなのか、より詳しく説明をする必要がある。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

「市民参加」がなければ「地域自治」はあり得ない。「地域自治」の実現が「共創」のプロセスに発展していくのではないかと。将来的にこうなしてほしいというイメージの世界を描いていると考えれば、多少は理解しやすくなるのではないかと感じた。

現行計画の都市像の一つには「協働」が含まれているが、次期計画では都市像を引き継ぐのみならず、「未来を拓く原動力」としてより具体的に説明されるようになったと理解した。それほど重要な概念であるにもかかわらず、計画体系図では「未来を拓く原動力」が右側に位置付けられているが、因果関係のフローを踏まえると、図の左側に位置付けるべきものではないか。

3 「変革のキーワード」について事務局より説明

<事務局説明要旨>

地域経営の変革に向け、社会や行政のあり方を再構築する取組を全施策のキーワードとして「デジタル・トランスフォーメーション(DX)」、「カーボンニュートラル」の設定を考えている。

4 意見交換

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

「キーワード」が適切な表現かと考えながら説明を聞いていた。各施策を横断するものとして理解している。

【明星大学教授 河合美香 氏】

私も「キーワード」という表現に違和感がある。「変革のキーワード」がなければ施策は実現できないのか、あるいは施策を全て紐づけなければならないのかと当初見えてしまった。デジタルはあくまでツールであり、全てをデジタルにする必要はない。デジタルが必要なところから進めていくべき。全てに横断的に示すことには疑問を感じる。

【事務局】

御指摘の通りと考えている。「DX」について市役所職員の意識が乏しいところがあり、「変革のキーワード」として掲げることで全庁を挙げて取り組みたいという強い思いがあった。必要なところから進めていくというのは十分認識しており、今後具体的な取組を検討していきたい。

会議の内容  
( 4 )

【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】

「変革のキーワード」とその説明で使用している「全施策共通のキーワード」は異なる概念ではないか。「全施策共通のキーワード」と捉えるのであれば、例えば、「サステイナビリティ(持続可能性)」等が考えられるが、現状を大きく変えるような「変革のキーワード」と捉えるのであれば、「DX」、「カーボンニュートラル」になり、いずれと捉えるかで選択するキーワードが異なってくるのではないか。

【事務局】

御指摘を受けて、改めて文言の整理が必要と感じた。市職員・市民の意識を変革したいとの思いを込めキーワードを選定したが、「全施策共通のキーワード」といった表現は検討の余地があると考えている。

【八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏】

「変革のキーワード」として「DX」が挙げられていたが、行政サービスの効率化が進み、事業者や市民の利便性が今後高まると考えられる。「DX」を契機として、市民や事業者の意見を聴取しながら、行政手続に関する従来の規制や制度を見直す体制を構築していただきたい。

【事務局】

現在、八王子市ではデジタル推進室という組織を設置し、今後は、デジタル推進室を中心に様々な行政サービスを見直す中でDXを検討していきたい。

また、今後の行政運営では、「DX」や「カーボンニュートラル」は社会や行政の在り方そのものを変えていく変革の取組になると捉えている。これらを全ての施策で意識する中で、今後の行政運営でどのようにサービスを展開していくかを考える必要があると感じている。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

「DX」や「カーボンニュートラル」は行政運営上の目標と理解してよいか。

【事務局】

行政内部だけではなく、社会そのものの仕組みを変えるために展開していきたいという思いがある。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

重要な取組であると理解したため、位置付けや表現はさらに検討の余地がある。

【八王子市町会自治会連合会副会長 尾寄敏夫 氏】

資料3の2ページでは、「みんなで目指す2040年の姿」の達成に向けて「変革のキーワード」が必要であると見受けられる。そうではなく、「みんなで目指す2040年の姿」の達成に向けて必要なことは地域経営の変革であり、それに必要なものが「DX」や「カーボンニュートラル」という位置づけの方がよいのではないか。

【東京都立大学教授 市古太郎 氏】

「DX」は施策横断的なキーワードとしてぜひ残していただきたい。市民生活をより豊かにするためには「データを活用」することが重要であり、市の保有するデータは原則公開いただきたい。

【事務局】

オープンデータの促進は重要と考えており、それにより地域課題を解決することを本市の「DX」の基本方針として打ち出している。引き続き推進していきたい。

会議の内容  
( 5 )

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

資料3の5ページでは、「市民視点に立って行政サービスを変革し」とあるが、これが「DX」の定義であり目的であると解釈できる。現在の記載では、技術論に偏りのある印象を受けるため、より大きな目的、例えば、「DX」が「未来を拓く原動力」の「地域自治」や「共創」につながるということを強調する記載あってもよいのではないか。そうすることで、「DX」の位置付けをよりアピールできるのではないか。

【下村麻子 氏】

「地域自治」や「共創」と同様に、「DX」も市民側のことと捉えていた。  
市役所職員が「変革のキーワード」を掲げて取り組むことが、市民の「未来を拓く原動力」となっているとされた方が皆で取り組んでいる印象を受けてより良いのではないかと感じた。

【みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏】

「地域自治」と「共創」は、自身の暮らしとまちに関連付けて言えば、「みなみ野のまちをみんなで作ろう」ということだと考えており、その中では例えば参画型の合意形成プラットフォームをいかに築くかという課題がある。市と市民との協働・共創をどう作っていくかという整理ができればより分かりやすくなると感じた。

5 「重点テーマ及び取組方針」について事務局より説明

<事務局説明要旨>

「みんなで目指す2040年の姿」の実現に向け、令和12年度(2030年度)までに重点的に取り組む内容を定めた。重点テーマは①未来の主役づくり、②未来へのつながりづくり、③未来に続く都市づくりの3つである。

本日は、重点テーマ①及び取組方針について、御意見をいただきたい。

6 意見交換

【小幡未紀 氏】

重点テーマ①の取組方針アの中で「生きる力」とあるが、「学ぶ力」や「考える力」ではなく、この表現にした理由は何か。

【事務局】

「生きる力」は知・徳・体、確かな学力を身に着け、豊かな心を育み、健やかな体を育てていくという3つことを表現している。

【小幡未紀 氏】

教育に特化したものではなく、体の成長なども含めっていると理解した。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

6つの都市像、19の基本施策、49の施策があるが、施策を個々に進めるのではなく、重点テーマ・取組方針として束ねて推進するという発想である。

【下村麻子 氏】

重点テーマ①の取組方針ウで「自然に健康でいられる環境と地域医療体制を整備する」とあるが、環境には景観や土木も一部関係すると捉えた。そうであれば、重点テーマ③の「未来に続く都市づくり」と一部重複することも想定されるが、それは問題ないという理解でよいか。

会議の内容  
( 6 )

【事務局】

取組方針ウで挙げられている「自然に健康でいられる環境」は、重点テーマ③の都市づくりと重複しているところもあると考えている。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

将来の構想の話をしているため、どこかでつながることは仕方ないかもしれない。

【八王子にほんごの会役員 宮武茜 氏】

重点テーマ①未来の主演づくりを「子どもだけではなく、高齢者もずっと主演であり続けられる社会にしたい」というように解釈した。そうであるならば、取組方針ウの冒頭に「人生100年時代を想定した」などを明記するとより分かりやすくなると感じた。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

主体は誰か、主体をいかに形成するか、参画していただくかが重点テーマ①の狙いではないかと感じた。

【事務局】

取組方針アでは、子どもと子育て世代をターゲットとして想定している一方、取組方針イ・ウでは、子どもから高齢者まで幅広く捉えており、ターゲットを限定することは想定していない。

「人生100年時代」は、取組方針ウで意識している。

【法政大学教授 淵元初姫 氏】

当初は取組方針ア、イ、ウを属性別のもので解釈していた。先程の説明にあった通り、必ずしも属性別ではないことがわかる書き方であるとよい。

また、取組方針ウの「自然に健康でいられる環境」には違和感があり、理解しづらい。表現を再度検討いただきたい。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

「自然に健康」は何を意図されたのか。言葉足らずな印象を受ける。

【事務局】

「自然に」は、「意識せずに」「無意識に」という言葉がニュアンスとして近い。例えば、意識せずに街なかを長距離歩いてしまうというような環境がすでにある、というような場面を想定している。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

もう一言、二言表現を補足いただいた方がよい。「自然に」からは、例えば「自然豊かな」等を想起される方が多いのではないか。

【事務局】

人生100年時代、健康寿命の延伸を考えると、より健康でいられる環境づくりが重要と考えている。「自然に健康でいられる」を考えた背景としては、行政の様々な取組や市民の様々な活動・行動が市民一人ひとりの健康につながっていく仕組みを構築したいということがある。

【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】

取組方針ウに関して、国の「健康日本21」という上位の国民健康づくり計画では、説明にあった趣旨のことが「健康を支え、守るための社会環境の整備」という言葉で使われている。無理やりやらせるのではなく、一人ひとりが自然に健康的な行動が取れる環境を作っていこうという趣旨であり、今回も基本的には同じ意味と理解した。ただし、表現は分かりづらいため、国の言葉にそのまま即して、「健康を支え、守るための社会環境の整備」としてはどうか。

取組方針イに関して、学びの機会を創出するのみでは自己実現は達成されない。経済的な基盤を確保する上では雇用が重要であるため、本来的には雇用という表現を入れるのが望ましいが、限定的にもなることから、例えば「多様な学びと参加の機会を創出し」としてはどうか。

会議の内容  
( 7 )

【明星大学教授 河合美香 氏】

人生100年時代を踏まえると、「生きる喜び」等の主役となる嬉しさや楽しさに関する表現を追加してはどうか。

【下村麻子 氏】

取組方針ウの「自然に健康でいられる環境」について、「自然と健康につながっていく環境」等とすれば分かりやすくなるのではないか。

【八王子市町会自治会連合会副会長 尾寄敏夫 氏】

取組方針ウについて、「地域医療体制を整備する」とあるが、具体的な施策に見受けられる。ここは重点テーマのため、あえて入れる必要はないのではないかと考える。

【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】

取組方針ウに関する先程の発言の補足であるが、国が環境整備を進める狙いとして、健康格差の縮小がある。その上位目標に向けて、個人の努力に頼らず、環境整備しようという流れがある。医療体制の整備もその一つであり、医療へのアクセスの改善が目標として掲げられている。したがって、取組方針ウにおいても「健康格差の縮小」という言葉があれば、それにつながる「環境整備」がより説得力のあるものになると考える。

【事務局】

取組方針を短い言葉で説明することはなかなか難しいと改めて感じた。補足的な説明をどのように入れていくか、工夫が必要であると考えます。

取組方針ウで医療体制を入れた意図は、新型コロナウイルス感染症など様々なものに対応していくためには更なる体制強化が必要と考えたためである。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

資料3の8ページの「～テーマに込めた思い～」について、「つながりによる安心の中で自分のみちをあるけるようになることにとどまらず、個々のできる範囲での社会参加を通じて支える側になっていくことで」とあるが、表現を再考できないか。「自分の望む人生設計ができる」などの言葉に置き換えたほうが良い。

【東京都立大学教授 市古太郎 氏】

「未来を拓く原動力」について、既に八王子市に「地域自治」や「共創」といった考えの萌芽があるからこそ、今回こういった言葉で事務局が取りまとめたのではないか。そういった具体的な事例やイメージを交えて、八王子市らしい「地域自治」や「共創」とは何かを提示いただくと、分かりやすくなると思う。

次第4 事務連絡

事務局より、事後の意見聴取方法は後日案内すること、第6回懇談会は、2月7日(月)19:00～21:00にオンライン(Microsoft Teams)で開催すること、資料に関しては事前配付を予定していることを説明。

次第5 閉会

以上